

グリーンスローモビリティ 地域推進事業

< 公募説明会 >

松戸市 福祉長寿部
(地域包括ケア推進課 地域支援担当室)

これまででの 取り組み

1. これまでの実証調査

2019年

国交省実証調査

全世代型地域共生
モビリティ実証調
査 with 都市型
介護予防モデル
“松戸プロジェクト”

(地域)

河原塚南山自治会

(実施主体)

松戸市・千葉大予
防医学センター・
河原塚ことぶき会

(期間)

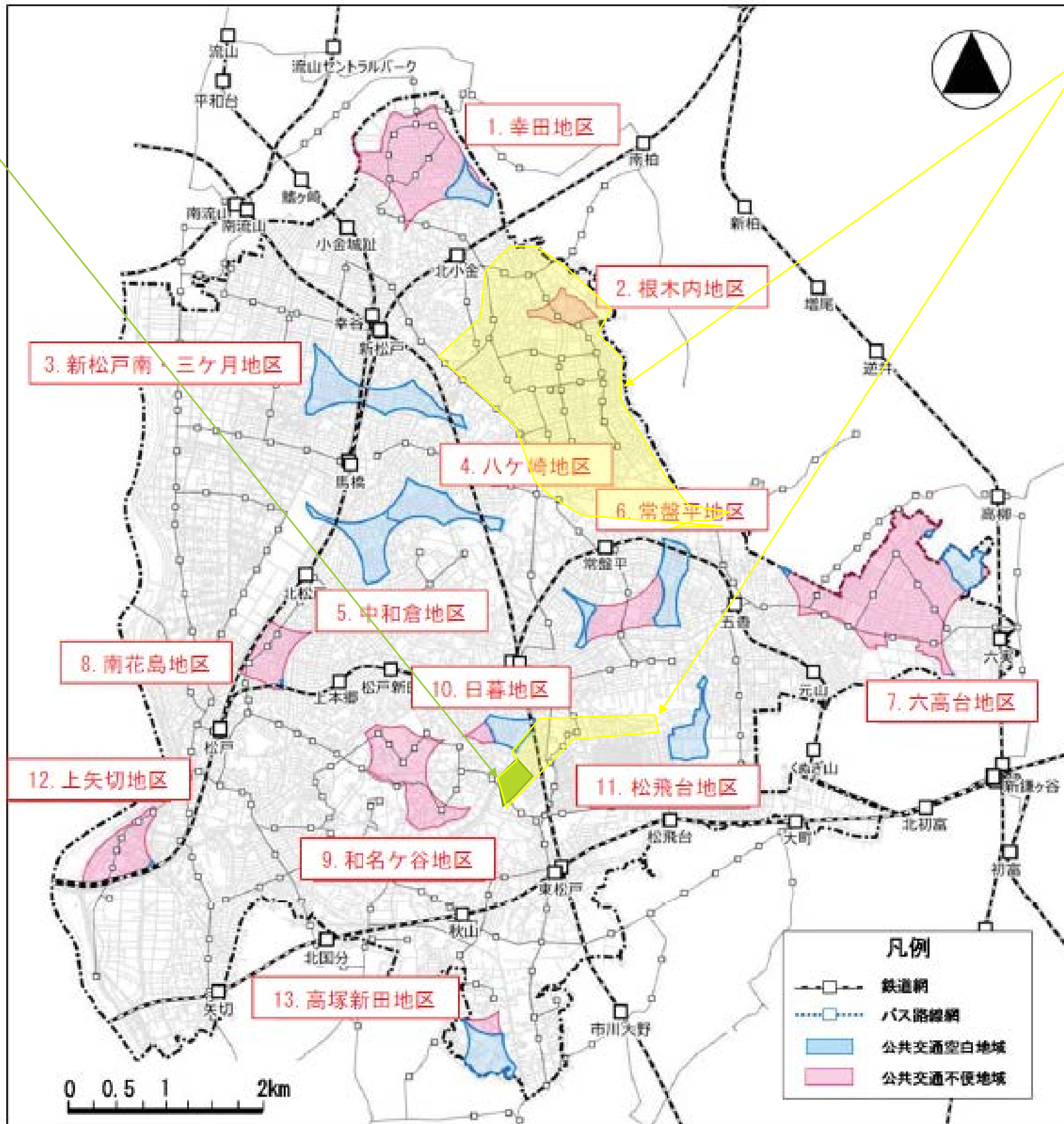
10月～11月(4週間)

(形態)

登録・許可不要

(利用車両)

ヤマハAR-07
7人乗り



2021年

千葉大予防医学セ
ンター・ヤマハ発
動機(株)実証調査

グリーンスローモ
ビリティを活用し
て、高齢者の移動
と健康に関連する
実証調査

(地域)

①河原塚地域
河原塚4町会
②小金原地区
小金原20町会

(実施主体)

松戸市
河原塚地域
小金原地区会

(期間)

10月～12月(8週間)

(形態)

登録・許可不要

(利用車両)

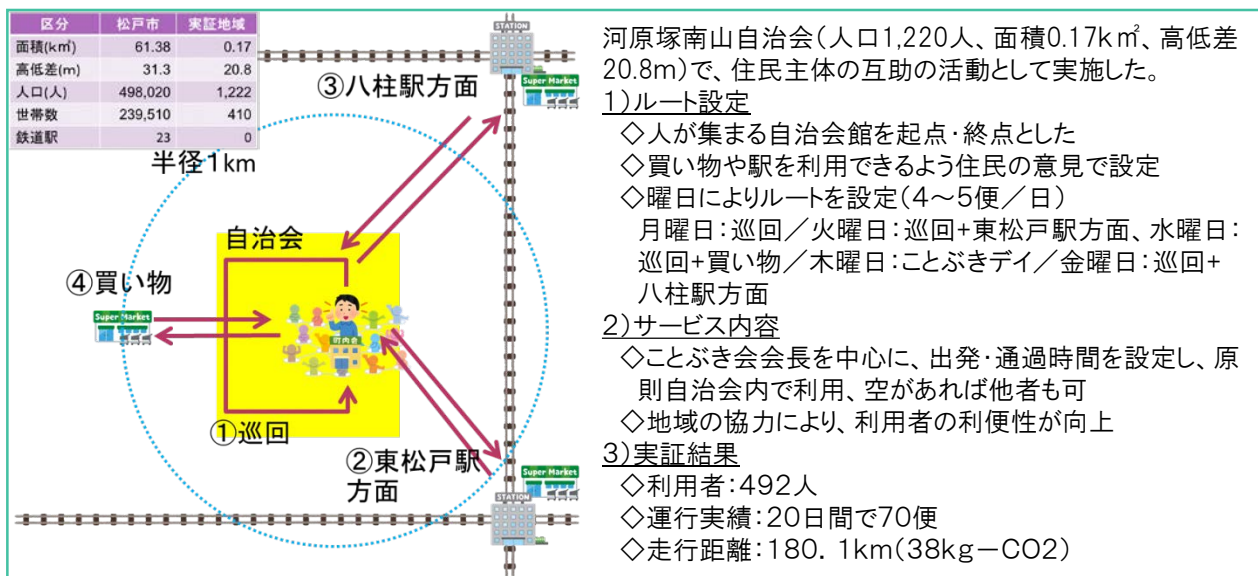
ヤマハAR-07
7人乗り 3

2019年実証調査①

国交省HP掲載資料（抜粋）

地域課題の概要	<p>【対象地域(河原塚南山自治会)が抱える課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一種低層住宅専用地域で、地域内は生活道路で狭隘である ・半径1kmに鉄道駅がなく、日常生活用日が買えるスーパー等がない ・地域内は高低差が20.8mあり、徒歩の移動に苦慮する ・高齢者のみ世帯や空き家が増えてきている一方、地域内に新たな宅地開発が進む ・地域のことぶき会(老人クラブ)を中心に地域課題に取り組む姿勢が強い
---------	---

■調査概要		
概要	調査期間	令和元年10月27日(日)から11月23日(土)の4週間
	運行ルート 運行形態 利用方法	定路線(①自治会巡回、②東松戸駅方面、③八柱駅方面、④買い物)+ことぶきデイ 定時運行(平日の昼間、時刻表による運行) 事前予約制(乗降場所フリー)、無料
	運転手	地域の無償ボランティア(14名:平均年齢76.5歳)
導入車両	ヤマハゴルフカート(7人乗り) 1台	



■役割分担	
自治体	松戸市 福祉長寿部 高齢者支援課(実施責任者:総合調整)
実施主体	河原塚ことぶき会(運転手・利用者の調整、車両の管理)
調査・環境整備	千葉大学予防医学センター(アンケートとGPS調査の実施、実施環境の整備)
地域関係者	自治会(車庫、電気、運転手等の提供)、その他(スーパー、駐車場等の協力あり)

地域のソーシャル・キャピタルの協力

自動車整備工場、スーパーマーケット、ドラッグストア、商店、個人

実証調査実施に当たってのポイント	ルート等サービス内容の設定	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域住民の意見を尊重し、4ルート設定 ② 安心・安全のために、主要道路の走行を最小化、右折をしない、ドラレコで全記録 ③ 信号・横断歩道がない交差点を通過する際に、警察署からの注意喚起箇所について、補助員等を配置し、実施
	運営体制構築	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域の互助による住民主体の活動であることから、運転手ボランティア・利用者の万が一の相互理解の推進 ② 運転手マニュアルの作成 ③ 地域の福祉施設等へ運転手ボランティアの協力要請
	関係機関調整	<ul style="list-style-type: none"> ① スーパーマーケットや駐車場など事前に協議し、円滑な対応 ② 地域の生活道路なので、ゴミ収集業者などへ事前周知 ③ 広報にて市全体、近隣自治会へ個別周知 ④ 地域の協力(コレクティブ・インパクト)
	利用者確保	<ul style="list-style-type: none"> ① ことぶき会の多くのメンバーが出席する南山カフェにて継続的に意見聴取 ② 自治会の役員会で事前説明し、全世帯に案内を配布 ③ ことぶき会への優遇措置(毎週木曜日:午前中はグランドゴルフ、午後は南山カフェ)

実証調査の成果	利用実態	<ul style="list-style-type: none"> ① 高齢者の利用が多く、リピーターになっていた ② グリスロ賛歌で楽しく買い物等の利便性が高い ③ 地域の人とつながりができた ④ 利用者の行動変容があった(行動範囲が拡大) ⑤ 安全性などから児童の利用はイベント時に制限した
	運営者側の声	<ul style="list-style-type: none"> ① 利用者を事前予約制にしたため、調整に苦慮した ② 運転手がボランティアであったため調整に苦慮した ③ 実施途中に、利便性を考慮し、ルート変更 ④ 移動以外にも見守り・声掛けに役立った ⑤ カートの保安やセキュリティおよび安全性に苦慮した
	利用者側の声	<ul style="list-style-type: none"> ① 移動ツールとしてではなく、地域のコミュニケーションツールとしての価値が高い ② 顔見知りの運転手が顔見知りの利用者に乗せ、地域の活性化につながった ③ 必要性が高いと感じられていた
	交通課題・環境課題への貢献	<ul style="list-style-type: none"> ① 鉄道駅から1km程度の住宅地であり、移動・環境への効果があった ② 公共交通への結節については、調整が必要となる

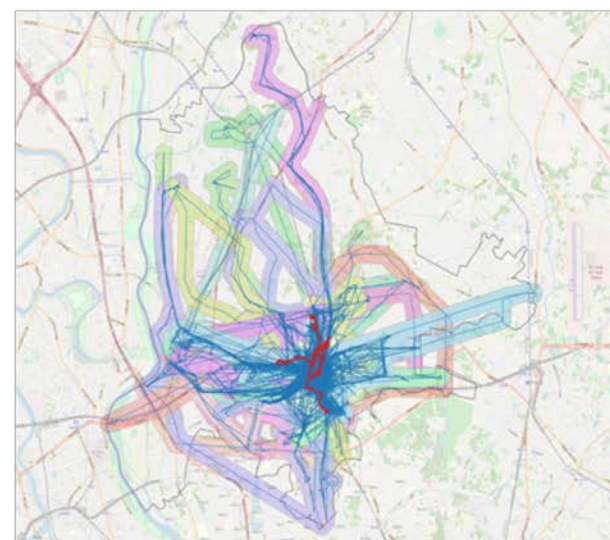
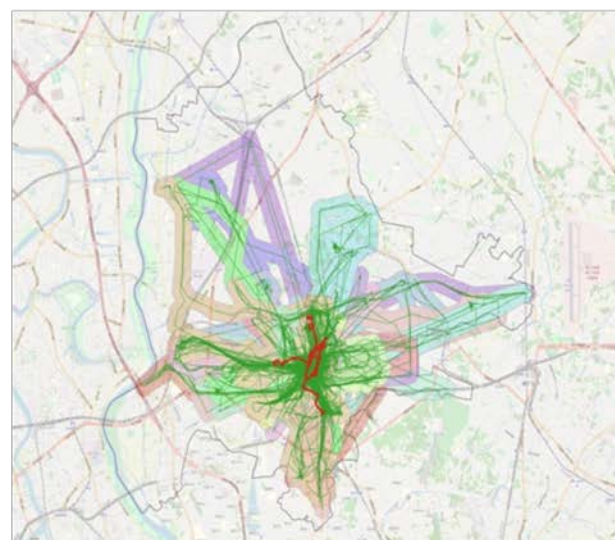
事業化に向けた課題	事業スキーム構築	<p>ソーシャル・キャピタルを結合した地域完結モデルとしての導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 走行地域の限定 ② 地域のソーシャル・キャピタルを活かした互助の無償の活動 ③ 地域のコミュニケーションツールとして「動くサロン」 <p>地域活性化ツールとして観光やイベントに活用できるモデルも構築する イベント・観光モデルの検討</p>
	理解・周知の促進	<ul style="list-style-type: none"> ① 公共交通とは異なるコンセプトとしての導入を目指す ② 運転手ボランティア・利用者の地域の相互の理解が必要である
	規制・ルール	普及モデルにしていくためには、 車両の安全性・快適性 を向上させる必要がある
	インフラ整備	SDG'sに基づきCO ₂ 削減を目指すために、電気自動車のように 充電ステーション の配置をすれば、停車中の充電も可能となり、走行距離が延びる

2019年実証調査②



導入前

導入後



※赤線は、グリーンスロモビリティ経路

自宅周辺に傾斜がある参加者（28人/58人中）に注目し、
 日常行動範囲の変化を確認したところ…
導入前に比べ、導入後は行動範囲が1.5倍に

2021年実証調査①

<契機>

千葉大学予防医学センターとヤマハ発動機(株)は短期間で調査できる地域として、2019年に国交省の実証調査で登録・許可不要で行った実績から選考された。(河内長野市と2市)



<小金原地区 (日常生活圏域) >20町会

概要	調査期間	令和3年10月25日(月)から12月19日(日)の8週間
	運行ルート 運行形態 利用方法	定路線(①地区巡回、②根木内城址公園方面、③常盤平駅方面、④買い物) 定時運行(平日の昼間、時刻表による運行) 事前予約制(乗降場所フリー)、無料
	運転手	地域の無償ボランティア(34名)
導入車両		ヤマハゴルフカート(7人乗り) 1台

利用者：296名

<河原塚地域>4自治会

概要	調査期間	令和3年10月18日(月)から12月12日(日)の8週間
	運行ルート 運行形態 利用方法	定路線(自治会単位に利用、買い物、グランドゴルフ等) 定時運行(平日の昼間、時刻表による運行) 事前予約制(乗降場所フリー)、無料
	運転手	地域の無償ボランティア(23名)
導入車両		ヤマハゴルフカート(7人乗り) 1台

利用者：566名

2019年度との相違点

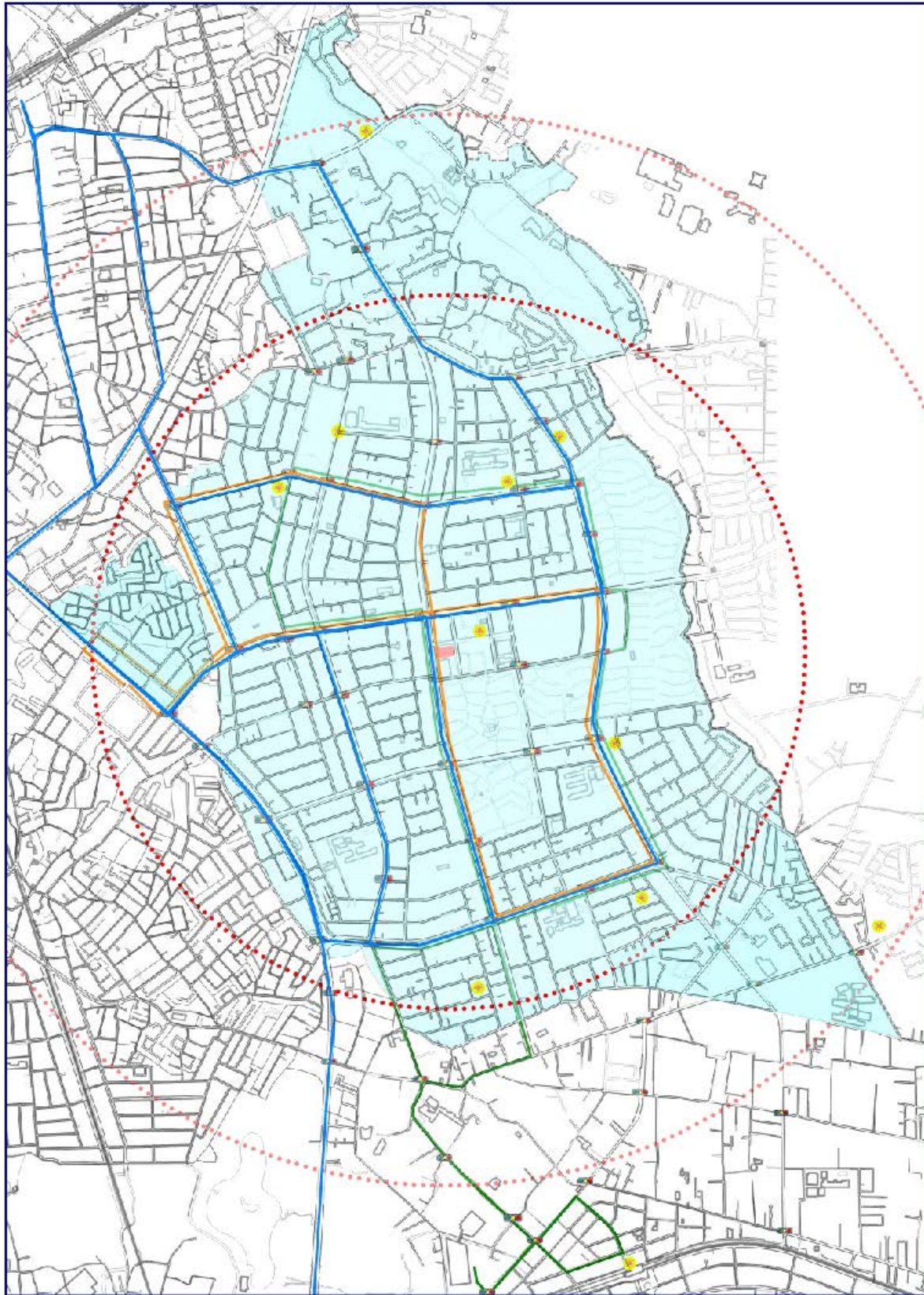
- ① 運行主体は複数町会・自治会
- ② 調査の拡充
- ③ 定時運行の他にイベント等への積極的な活用

2021/8月から10月まで

「グリスロの試乗・啓発」のために市役所とJR松戸駅までデモ走行 (平日2便/日)

2021年実証調査②

小金原地区

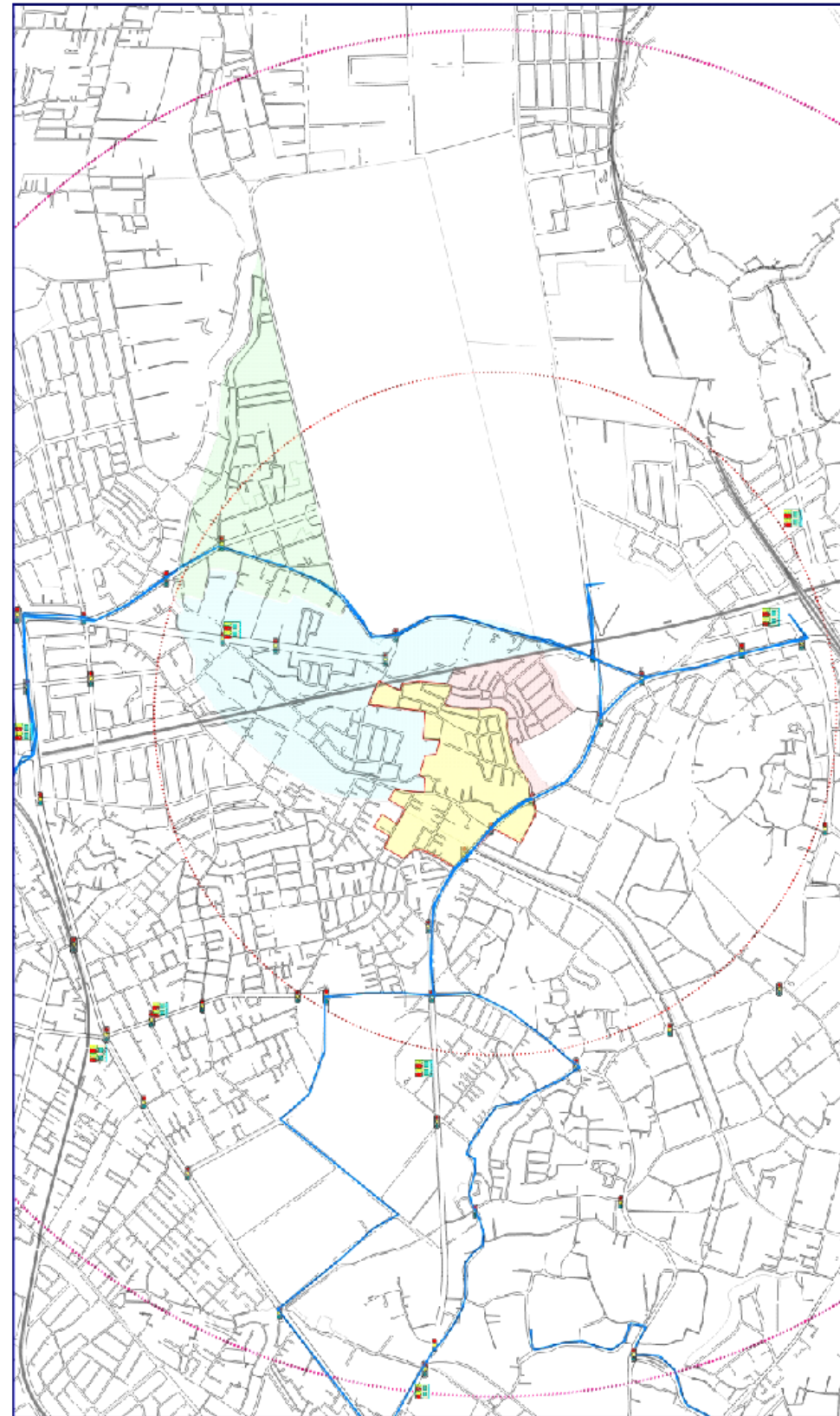


縮尺 1/9700

0 400m

※敷地の境界、都市計画などの内容を証明するものではありません。

河原塚地域



縮尺 1/10000

※敷地の境界、都市計画などの内容を証明するものではありません。

2021年実証調査③

<小金原地区>

実証調査の成果	利用実態	①高齢者の利用が多く、リピーターになっていた ②買い物等の利便性が高い ③地域の人とつながりができた ④イベント等に積極的に利用 ⑤走行中にピックアップするなど互助が発揮された
	運営者側の声	①利用者を事前予約制にしたため、調整に苦慮した ②運転手がボランティアであったため調整に苦慮した ③移動以外にも見守り・声掛けに役立った ④カートの保安やセキュリティおよび安全性に苦慮した
	利用者側の声	①移動ツールとしてではなく、地域のコミュニケーションツールとしての価値が高い ②顔見知りの運転手が顔見知りの利用者を乗せ、地域の活性化につながった ③必要性が高いと感じられていた
	交通課題・環境課題への貢献	①路線バスはあるものの、移動・環境への効果があった ②公共交通への結節については、調整が必要となる

<河原塚地域>

実証調査の成果	利用実態	①高齢者の利用が多く、リピーターになっていた ②グリスロ賛歌で楽しく買い物等の利便性が高い(編曲) ③地域の人とつながりができた ④2度目の利用で上手に活用
	運営者側の声	①利用者を事前予約制にしたため、調整に苦慮した ②運転手がボランティアであったため調整に苦慮した ③実施途中に、利便性を考慮し、柔軟にルート変更 ④移動以外にも見守り・声掛けに役立った ⑤カートの保安やセキュリティおよび安全性に苦慮した
	利用者側の声	①移動ツールとしてではなく、地域のコミュニケーションツールとしての価値が高い ②顔見知りの運転手が顔見知りの利用者を乗せ、地域の活性化につながった ③必要性が高いと感じられていた
	交通課題・環境課題への貢献	①鉄道駅から1km程度の住宅地であり、移動・環境への効果があった ②公共交通への結節については、調整が必要となる

(ユニークな活用事例)

イベントの送迎

閉じこもっていた方が久しぶりに外出

杖を突く方に声掛け、自宅まで送る

途中で待ち合わせして一緒に買い物

地域の夜警に出動



地域のソーシャル・キャピタルの協力：車両の陸送（レクサス松飛台）、スーパーマーケット、介護福祉施設等

グリーンスロー・モビリティ事業

●背景

- ・地域における“**移動**”は重要
- ・費用負担は誰が？
- ・閉じこもり・介護予防で介護費用が減る？

●目的

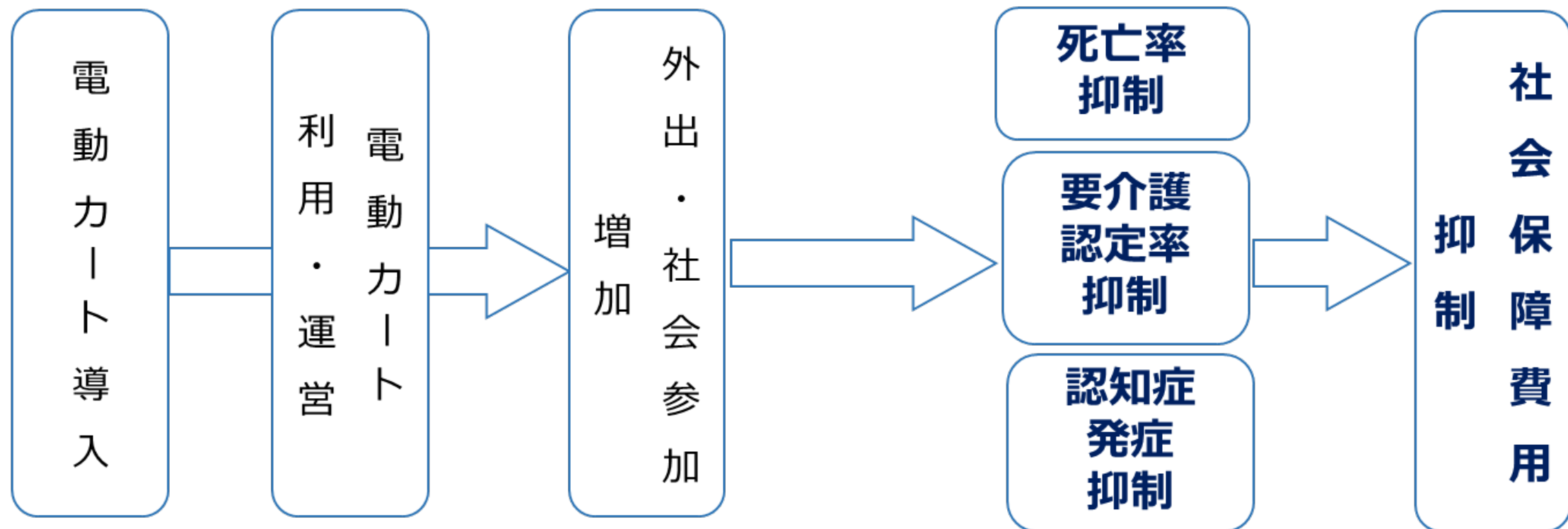
グリーンスローモビリティ（電動カート）導入による
高齢者の介護予防効果、社会保障費抑制効果の検証

●千葉大学予防医学センター・ヤマハ発動機株式会社 で松戸市において共同研究*を実施

*産学共創プラットフォーム共同研究推進プログラム（OPERA）

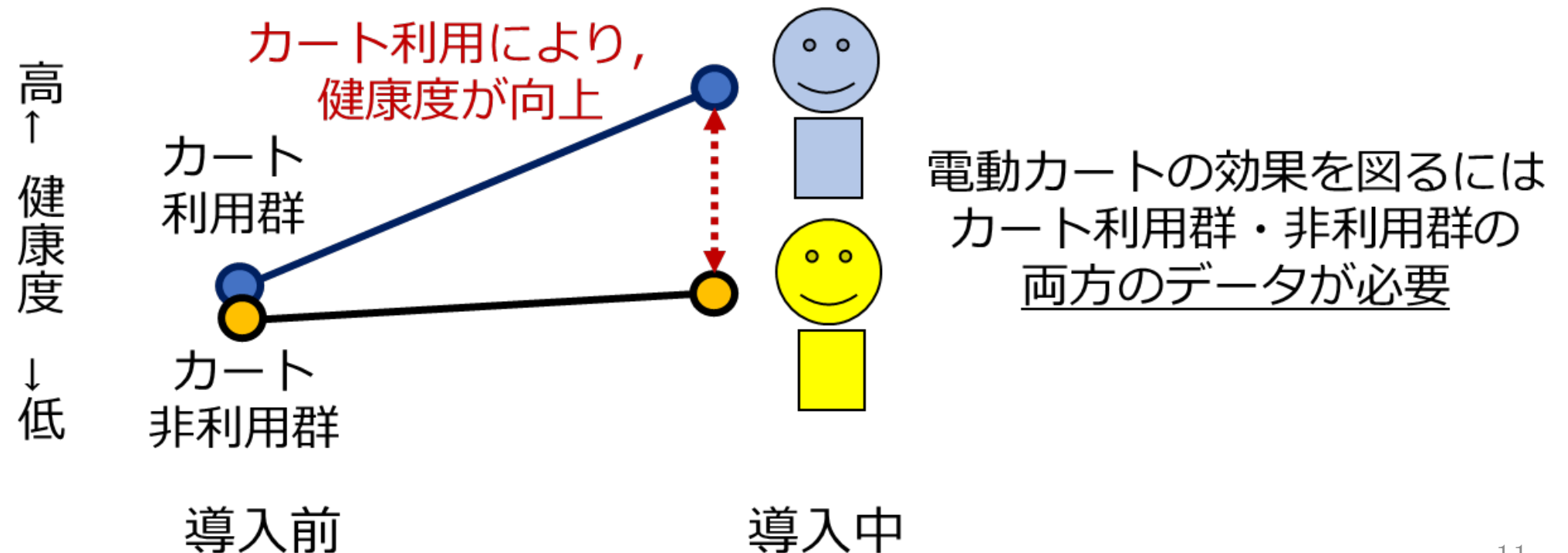
《ゼロ次予防戦略によるWell Active Communityのデザイン・評価技術の創出と社会実装》
「電動カート導入による高齢者のQOL向上の見える化」

本実証調査のロジックモデル



電動カート導入により、
外出・社会参加が増える

要介護認定・社会保障費用などが抑制
→電動カート購入費用へ



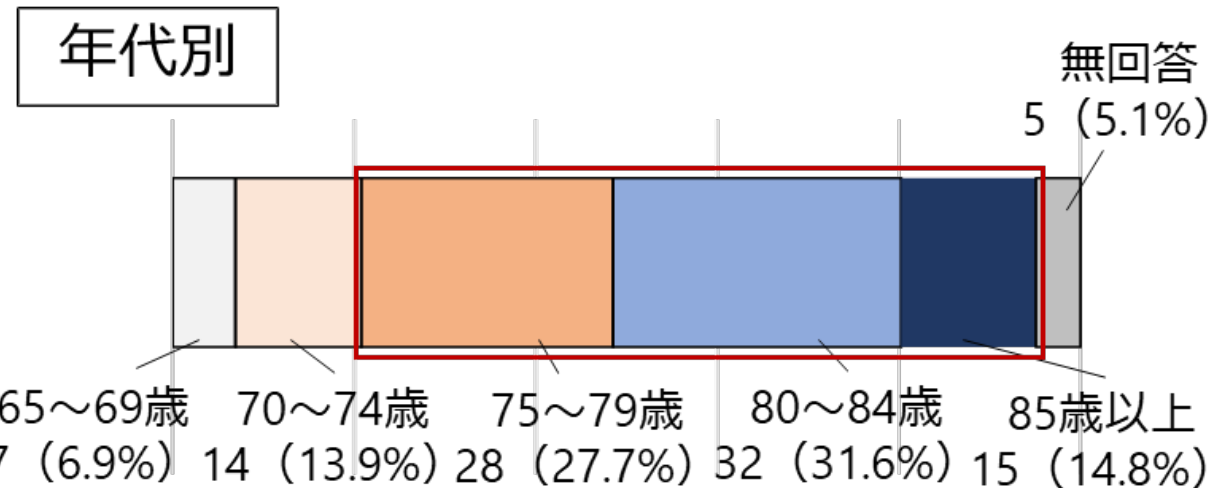
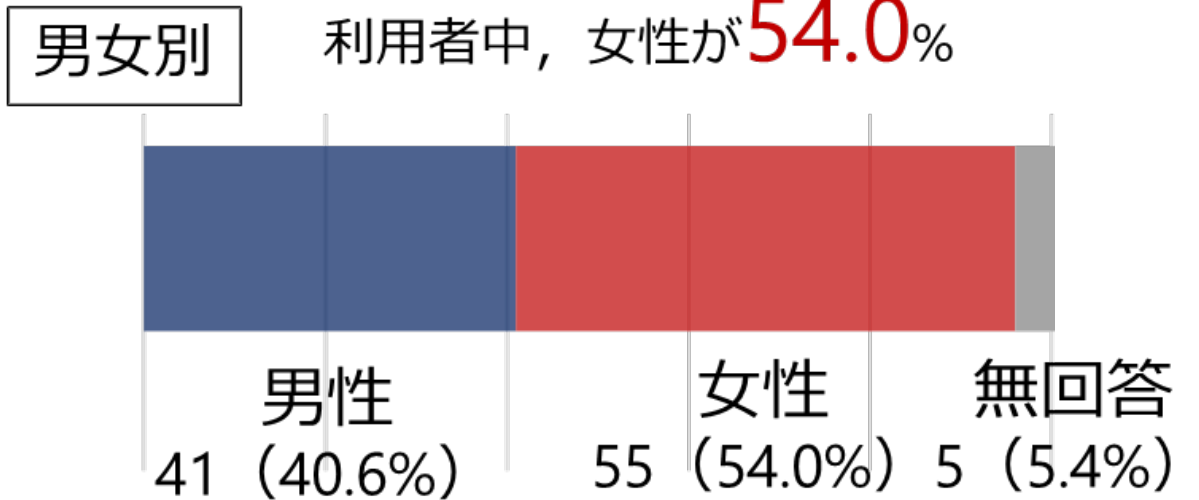
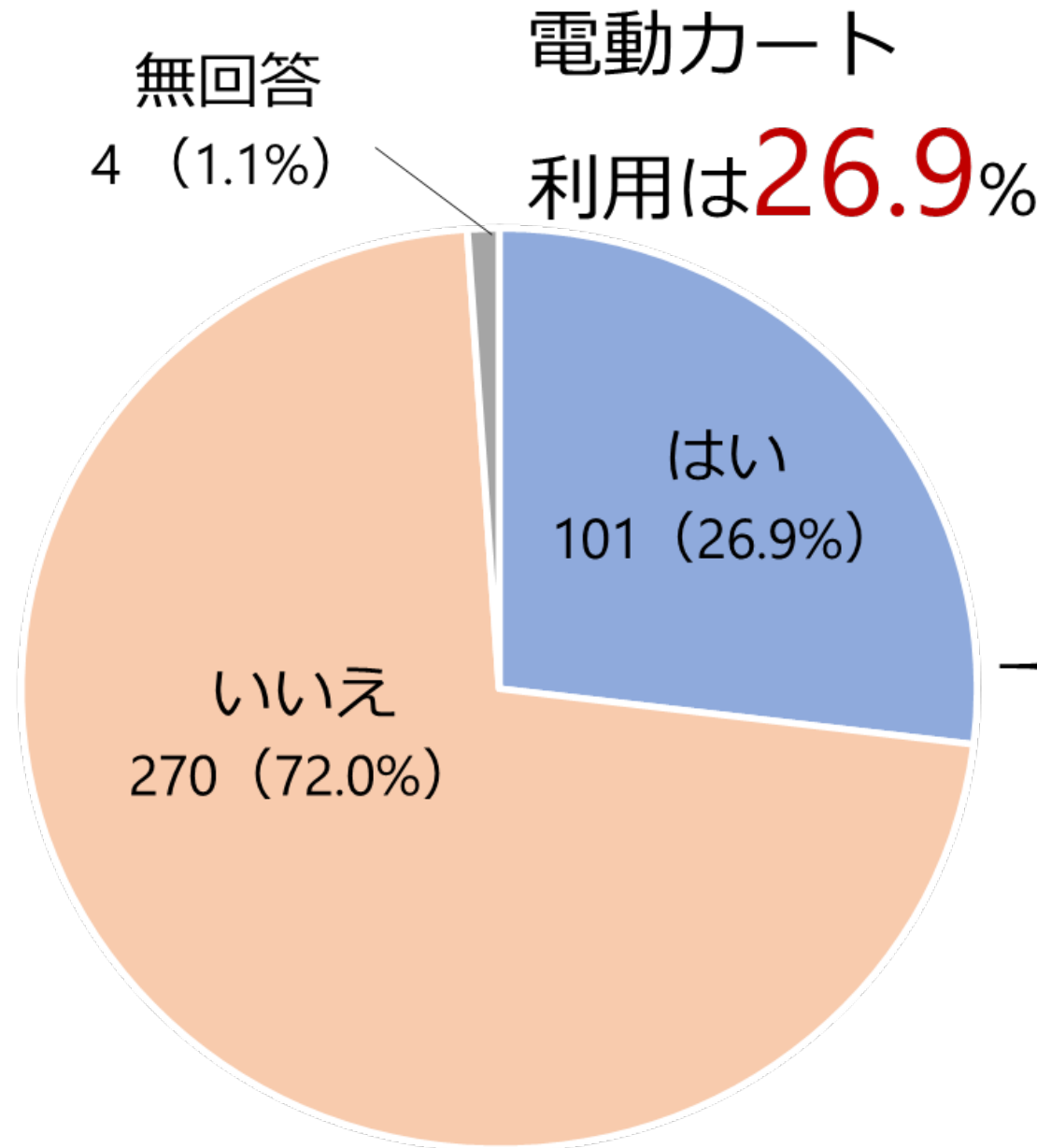
2021年実証調査⑥

利用者 & 非利用者：電動カートの利用

【質問】この2か月（2021年10月～現在までに）電動カートを利用した。

【回答】はい、いいえ

河原塚・小金原地区
調査回答者：375人

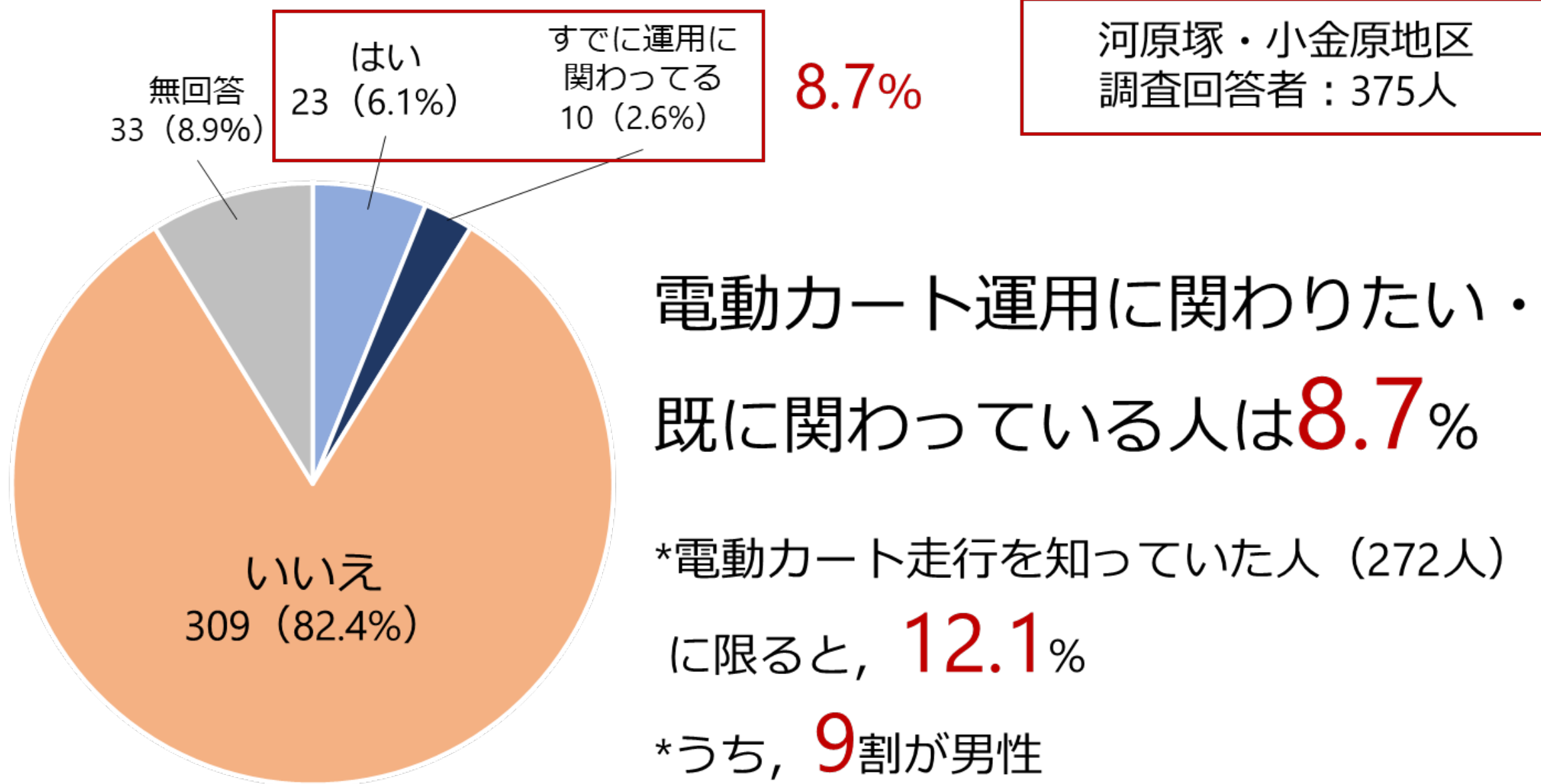


利用者中、後期高齢者が**74.1%**

利用者 & 非利用者：電動カートへの運用への協力

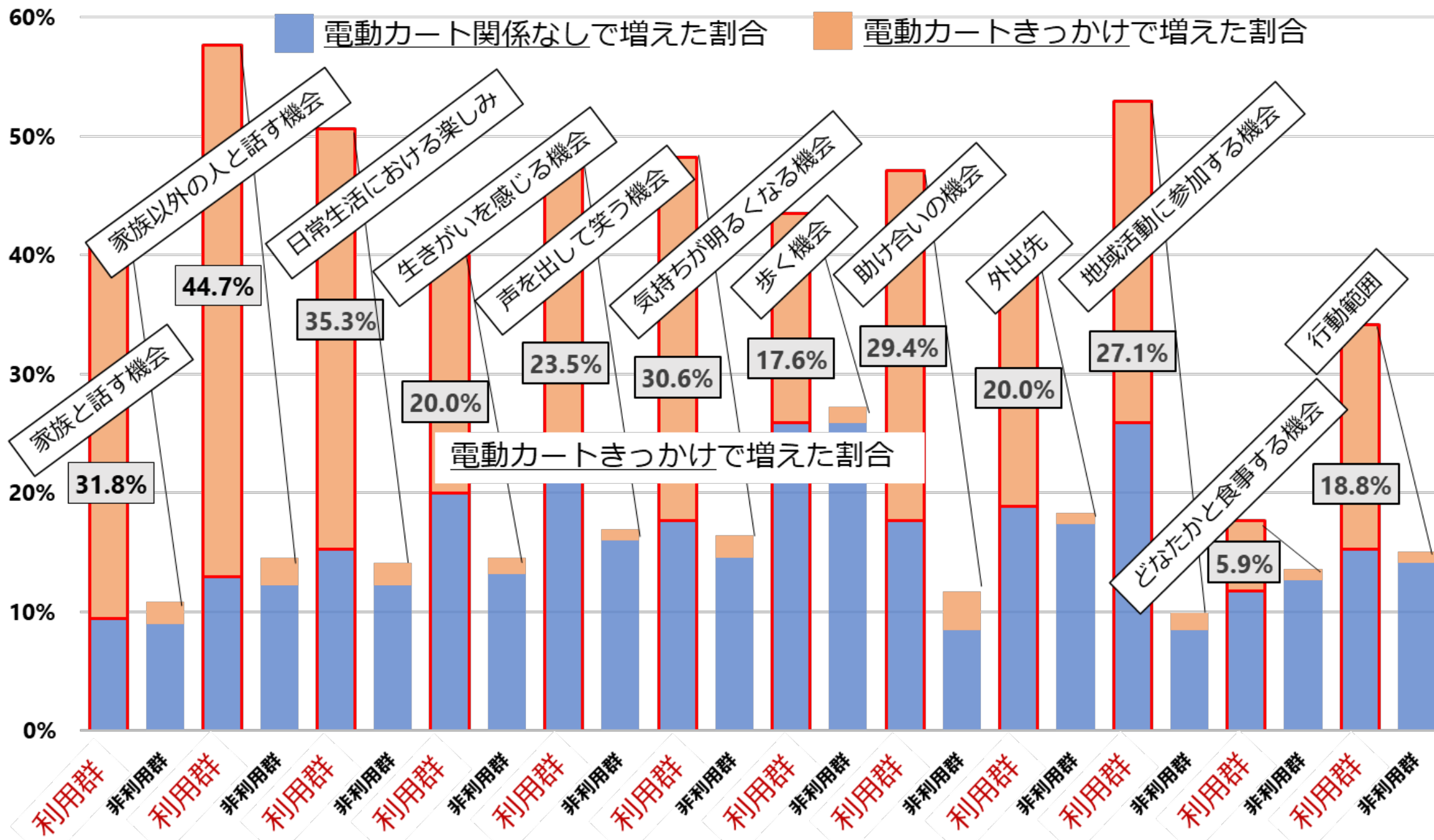
【質問】 もし、地区に電動カートを本格導入した場合運転手などとして運用に関わりたい。

【回答】 はい、すでに運用に関わっている、いいえ



電動カート利用群で望ましい心理・行動1-4割増

方法 【質問】 約2ヶ月前（2021年10月）と比べて下記のような機会に変化はありましたか。
 【回答】 増えた（電動カートきつかけ）、増えた（電動カート関係なし）、どちらでもない、減った



松戸市河原塚・小金原地区
調査回答者：298人

利用群 N=85, 非利用群 N=213

実証調査（まとめ）

小さな移動

- ・ 社会参加の促進
- ・ 介護予防
- ・ 代替サービス

コミュニケーション

- ・ 活躍の機会と場（役割・生きがい）
- ・ 互助の活性化
- ・ 地域の連帯（孤立化防止）

住環境の向上

- ・ 脱炭素
- ・ ソーシャル・キャピタルとの連携
- ・ 安心・安全の向上

ソーシャル・キャピタルとの連携実績

<2019>

有限会社センチュリーオート、千葉県電気工事工業組合松戸支部、ヤオコー松戸稔台店、イトーヨーカドー八柱店、ベルクス東松戸店、マルエツ東松戸駅店、有限会社太左衛門、阿部クリニック、ドラッグセイムス稔台店、ユニクロ東松戸店、ガーデン松戸

<2021>

レクサス松飛台、小金原中央商店街、ヨークマート青葉台店、社会福祉法人根木内福祉会リバーサイド・ヴィラ
千葉県電気工事工業組合松戸支部、ヤオコー稔台店、セイムス稔台点、ベルクス松戸河原塚店、ベルクス東松戸店・ファインシティ東松戸店

2022年 事業化①

1. グリーンスローモビリティ (略称「グリスロ」)

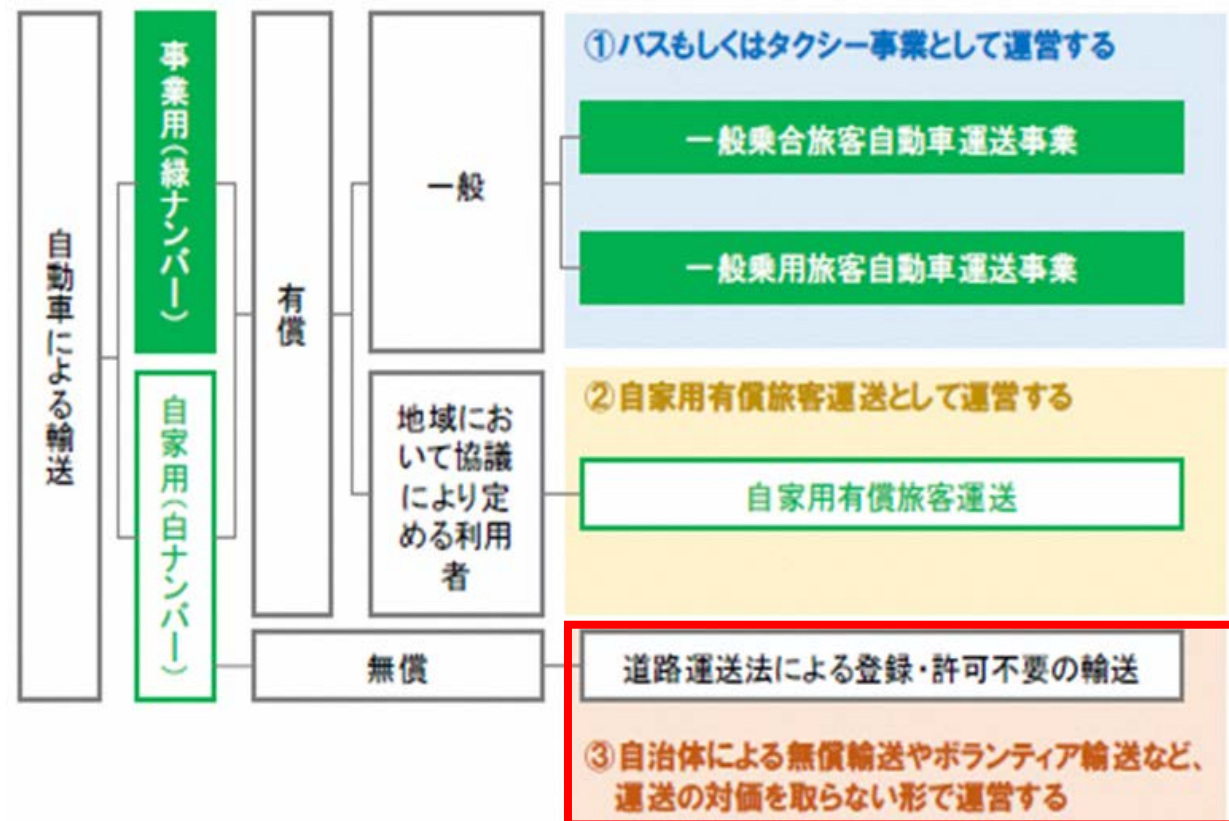
- 1) 時速20km未満 (道路運送車両法の規制緩和が受けられる)
- 2) 電動車を活用 (CO2削減)
- 3) 小さな移動サービス (ゆっくりと、余裕をもって、近くまで)



▲従来の公共交通 (左) とグリーンスローモビリティ (右) の違い

小さな移動により
社会参加を促進
⇒介護予防

2. グリスロの実施運用形態



▲グリーンスローモビリティ運行の事業形態の法令上の位置づけ

地域コミュニティ
を活性化
⇒互助

SDGsの実現

⇒3「すべての人に健康と福祉を」-6 (道路交通事故による死傷者を半減)
⇒11「住み続けられるまちづくりを」-2 (2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する)
⇒居住地の包摂、安全、強靱、持続可能

⇒11「住み続けられるまちづくりを」-2 (2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、

子供、障害者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する)

⇒居住地の包摂、安全、強靱、持続可能

住環境への配慮
⇒カーボンニュートラル (脱炭素)

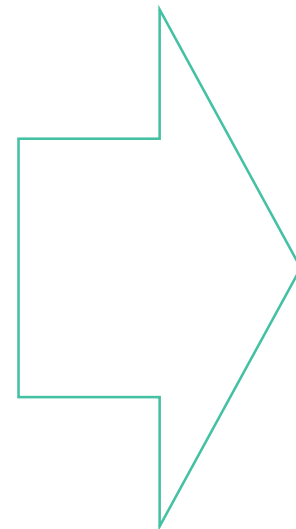


▲従来の公共交通（左）とグリーンスローモビリティ（右）の違い

松戸モデル：公共交通とは役割が異なる！！

Fast (早く)
Full (大勢)
Far (遠くまで)

3 F



Slow (ゆっくり)
Small (少人数)
Short (短く)

3 S

特性を活かし

- ① コミュニケーションツール (動くサロン)
- ② 住民が考え、多目的な活用

公募説明

区分	内容
1) 地域導入	地域の互助で年間を通してグリスロを運行する
2) 実証調査	地域の互助で4週間グリスロの実証調査を行う
3) 民間協力	市と地域が推進するグリスロへ支援する

グリーンスローモビリティは、地域の互助の活動で小さな移動で社会参加が促進され、地域内でのコミュニケーションが活性化されるとともに、住環境の向上に寄与できると考えております。

- ①事業実施主体は松戸市内で活動する非営利団体
- ②走行地域は松戸市内を原則

1) グリantroを地域に導入するに際して

グリーンスローモビリティの導入と活用 の手引き (別冊)

-抜粋-

1. 導入の必要性

- ①必要な場面 (地域課題)
- ②実現可能性

2. 事業内容

- ①サービス内容
- ②必要となる設備
- ③安全対策
- ④関係者との調整

3. 運営体制 (活用場面の拡張)

4. 地域の一体的実施

- ①地域の周知
- ②利用者の確保
- ③運転者の確保

5. モニタリング

グリーンスローモビリティ地域推進事業 同意確認事項 (別紙)

-抜粋-

1. 総則

- ①事業実施主体
- ②貸与期間
- ③費用負担

2. 車両及び運転者管理

- ①車両、その管理、運行
- ②運転者

3. 利用者

4. 地域の協力

5. 市の役割

- ①車両の確保
- ②継続的な支援

2) 地域導入 (抜粋)

(車両)

提供予定車両：次のグリーンスローモビリティからいずれか1台を選択

- ①タジマ製nao-6j (8人乗)
- ② 〃 nao-8j (10人乗)
- ③ヤマハ製AR-07 (7人乗)

(応募要件)

- 1) 地域：町会・自治会（単一・複数でも可）※地域の理解が必要不可欠
- 2) 導入時期・期間：10月頃を予定、1年間（更新可）
- 3) 運行時間・本数：（平日）午前1便・午後1便以上（その他は協議）
- 4) 走行ルート：原則導入地域内（ただし、交通事情を考慮するため警察等と調整）
- 5) 運転手：地域で確保（自動車免許保持者、運転講習受講が必須）
- 6) 利用者：地域で確保（100名程度を想定）
- 7) 駐車場：地域で確保
- 8) 車両の充電設備：地域で確保
- 9) アンケート調査への協力：利用者・運転手・地域
- 10) 補助制度：あり（諸経費）
- 11) モデル事業：可能であれば要介護認定者の支援 **別項 1**

<地域説明への協力>

地域での説明が必要場合は随時市が協力します

(応募様式) **別紙 1**

1) 地域導入

<応募〆切>

7月19日（火）

提出後ヒアリングを実施

決定後、車両発注

<選考方法>

運行体制、運転手や利用者の人数等、地域特性を考慮し、アドバイザーと協議し導入地域を決定（令和4年度は2地域）

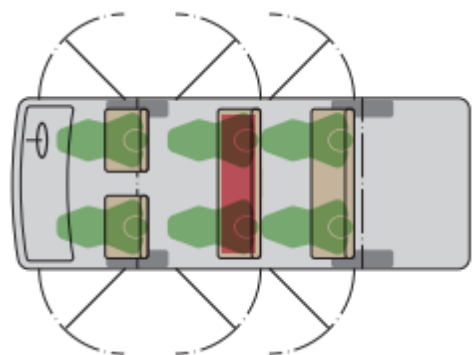
(決定後)

- 1) 車両の決定
- 2) 運用体制等の詳細協議（責任者、車庫、充電場所等）
- 3) 関係機関との連絡調整（運輸支局・警察署・公共交通機関等）
- 4) 地域環境整備（地域への周知、看板等の設置）
- 5) 協力企業・事業者等との調整

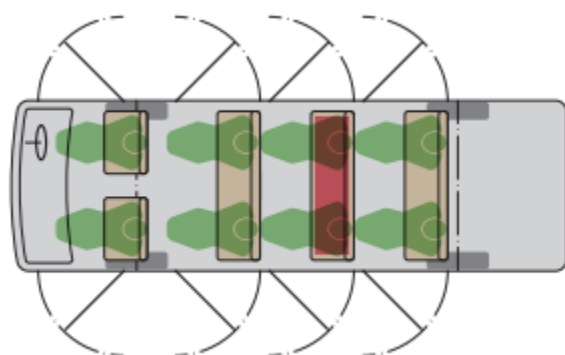
<別項1>モデル事業

地域で在宅で要介護認定を受け、買い物支援等を受けている方の社会参加の機会として、グリスロを活用し、自ら買い物等に行く機会を確保し、要介護認定を持っていても可能な限り自立した生活ができるような取組みを行うことに協力が得られる場合に実施する。

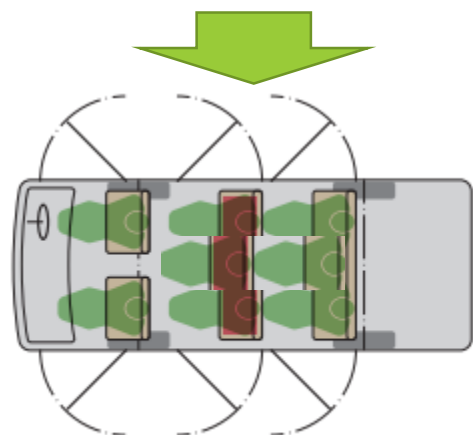
2) 使用予定車両①②



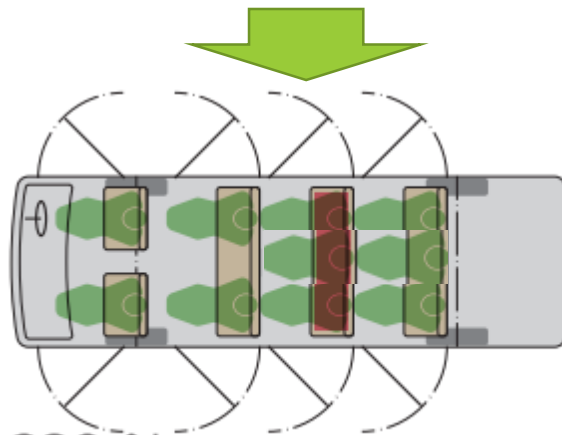
nao-6J
6人乗 (2・2・2)



nao-8J
8人乗 (2・2・2・2)



nao-6J
8人乗 (2・3・3)

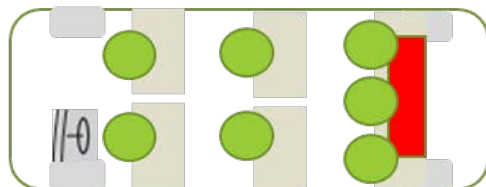


nao-8J
10人乗 (2・2・3・3)

メーカー	タジマ	
	NAO-6J	NAO-8J
型式	NAO-6J	NAO-8J
全長(mm)	4,050	4,900
全幅(mm)	1,500	
全高(mm)	2,230	
最低地上高(mm)	130	
車両重量(kg)	1,170	1,370
最小回転半径(m)	3.6	5.4
乗車定員	6(8)	8(10)
登降坂性能	15°	
駆動方式	ACモータ	
バッテリー	鉛バッテリー (リチウムに変更可)	
充電方式	AC100or200	
充電時間	7~10時間	
タイヤサイズ	155R12	
運転席	右	
ステアリング	電動パワステ	
一充電走行距離	80km	
装備	外気導入型エアコン	
ドア	ヒンジドア×6	ヒンジドア×8

(標準)
スピードメーター、バックモニター

2) 使用予定車両③



メーカー	ヤマハ
型式	AR-07
全長(mm)	3,960(ロッキー-3,995)
全幅(mm)	1,355
全高(mm)	1,840
最低地上高(mm)	115
車両重量(kg)	585
最小回転半径 (m)	4.5
乗車定員	7
登降坂性能	20°
駆動方式	DCモーター
バッテリー	リチウムイオン電池
充電方式	単相200V
タイヤサイズ	190/50-12
運転席	左
ステアリング	ラップ&ピニオン式
走行距離	50
装備	-
ドア	-

2) 使用予定車両 (比較)

メーカー	ヤマハ	タジマ	
型式	AR-07	NAO-6J	NAO-8J
全長 (mm)	3,960	9cm 4,050	94cm 4,900
全幅 (mm)	1,330	17cm	1,500
全高 (mm)	1,840	39cm	2,230
最低地上高 (mm)	115	1.5cm	130
車両重量 (kg)	550	1,170	1,370
最小回転半径 (m)	4.5	3.6	5.4
乗車定員	7	6(8)	8(10)
登降坂性能	20°	15°	
駆動方式	DCモーター	ACモータ	
バッテリー	リチウムイオンポリマー電池74.6V×74Ah	鉛バッテリー (リチウムに変更可)	
充電方式	AC200V	AC100or200	
充電時間	約5時間	7~10時間	
タイヤサイズ	195/50R12 4PR	155R12	
運転席	左	右	
ステアリング	ラック・ピニオン式	電動パワステ	
一充電走行距離	50km	80km	
装備	-	外気導入型エアコン	
ドア	-	ヒンジドア×6	ヒンジドア×8
その他		ハザードランプ (非常点滅表示灯) バックモニター 緊急停止ボタン	

3) 実証調査

(車両) 令和4年度は1台導入

市が提供する車両：タジマ製nao-6j（改造8人乗）※前掲参照
タジマ製koki（3人乗）※調整中

(応募要件)

- 1) 地域：町会・自治会（単一・複数でも可）
- 2) 実証期間：令和4年9月中旬を皮切りに順次実施予定 4週間貸与
- 3) 運行時間・本数：（平日）午前1便・午後1便以上
- 4) 走行ルート：原則調査地域内（ただし、交通事情を考慮するため警察等と協議）
- 5) 運転手：地域で確保（自動車免許保持者、運転講習受講が必須）
- 6) 利用者：地域で確保（50名以上を想定）
- 7) 駐車場：地域で確保
- 8) 車両の充電設備：地域で確保
- 9) 地域の負担：駐車場代、電気料（ただし、公共施設を活用できた場合は、市が負担）
- 10) アンケート調査への協力：利用者・運転手・地域

<地域説明への協力>

地域での説明会を行う場合、必要に応じて市が協力します

<応募> **応募様式（別紙2）**

一次〆切：7月19日（火）、その後は随時受付
提出後、ヒアリングを実施し、決定

<選考>

走行ルート、運転手や利用者の人数等、地域特性を考慮し、アドバイザーと協議し地域を決定



3) 追加予定車両



車両主要諸元		
車種	車名	HIBAO
	型式	TAJIMA KOKI
	登録規格	側車付軽2輪
仕様	全長 × 全幅 × 全高 (mm)	2120×1050×1710
	ホイールベース (mm)	1520
	トレッド 後 (mm)	925
	最低地上高 (mm)	170
	車両重量 (kg)	245
	乗員定員	3名
原動機 (電動機)	型式	ACモーター
	定格出力 (Kw)	1.5
主電池	定格電圧 (V)	60
	バッテリー種類	鉛バッテリー
	容量	60V 52Ah (12V × 5 Pcs)
	充電装置	車両用充電器
	充電電圧 (V)	AC100
駆動	駆動方式	後輪駆動
緩衝装置	懸架方式 前輪	油圧フロントフォーク
	懸架方式 後輪	リーフスプリング
構造	車枠	スチールスペースフレーム
制動装置	主ブレーキ (前)	ドラムブレーキ
	主ブレーキ (後)	ドラムブレーキ
	駐車ブレーキ	ハンドブレーキ 後輪
走行装置	タイヤサイズ	3.50-10
	ホイール	スチールホイール
主要仕様	最高速度 (Km/h)	25
	標準充電時間 (hour)	8-10
	満充電時走行距離 (km) ※1	50
主要装備	<ul style="list-style-type: none"> ●ワイパー ●ハロゲンヘッドライト (ハイ/ロー切替) ●LED コンビテールランプ (バックランプ付) ●コンビネーションメーター ●サンバイザー ●フロアマット 	

※1：25km/h定地走行値(平坦地、1名乗車、乾燥路面、無風、新車の条件下での数値)。
走行条件、乗車人数で走行距離は変わります。

車両等に関する共通事項

※車両の貸与協定を締結

(任意保険)

市が加入する

- ①運転者年齢：問わず
- ②対人・対物賠償：無制限
- ③人身傷害：1億円
- ④車両保険：あり

(車庫・充電設備)

- ①屋根付きが望ましい
- ②車種により100Vまたは200V

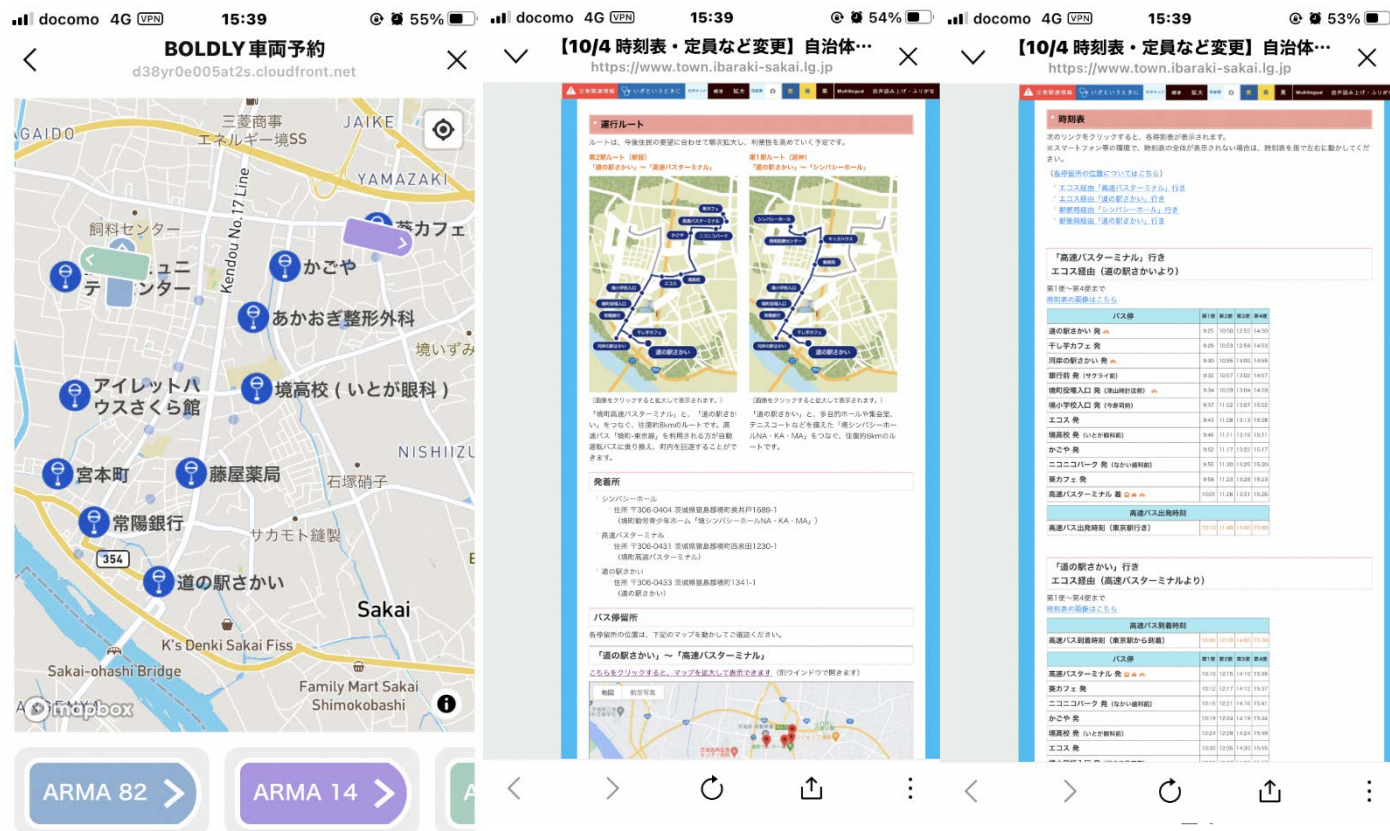
(その他附属品)

- ①ドライブレコーダーは標準装備
- ②感染防止対策
- ③LINEアプリで車両の位置情報等を提供

その他事項

地域導入の場合

- ①市から補助金を支出する予定なので、実施主体は会則を有し、会計の透明性を確保すること
- ②運転手等無償ボランティアで活動する者についてはポイント（介護支援ボランティアポイント等）を付与する予定（ポイントの活用方法も拡充を検討中）
- ③活動に対する補助金は、予算の範囲で協議する
- ④民間支援による寄附等は実施主体は活用できるものとする



3) 民間支援

市では、グリーンスローモビリティが、地域の互助の活動で小さな移動で社会参加が促進され、地域内でのコミュニケーションが活性化されるとともに、住環境の向上に寄与できると考えております。

地域でグリーンスローモビリティを安定・継続的に推進していきために、地域のソーシャル・キャピタルの支援は必要不可欠です。（コレクティブ・インパクト）

是非、広告、ネーミングライツ、サポーター制度など様々な形でのご支援をお願いいたします。

ご支援いただいた方については、車両へのステッカー貼付、のぼり旗の設置等の対応

<期待される内容>

市もしくは地域に

1. 金銭の寄附
2. 駐車場や充電の提供
3. 運転手の提供
4. 買い物等の優遇
5. 運転手講習会の場所の提供
6. 車両等の移送
7. 物品等の提供

応募：随時受付（応募様式：別紙3）

<問合せ先>

松戸市 福祉長寿部

〒271-8588

松戸市根本387-5

グリーンスローモビリティ担当参事監 中沢

TEL047-366-7346

E-mail ytknkzw@city.matsudo.chiba.jp

地域包括ケア推進課 地域支援担当室 斉藤・石井・松本

TEL047-702-3652

E-mail mckaigoyobou@city.matsudo.chiba.jp